

学校図書館 司書だよ!

2007年11月



えほん

『ぶたばあちゃん』
マーガレット・ワイルド文
ロン・ブルックス絵
あすなろ書房 1055円

ぶたばあちゃんとは孫娘はすこしづつおさまりました。



物語

『かぜでねてるの』 今村 華子 作
数巻画劇 780円

かぜで学校をお休みしてねてる時って、いろいろ言がもけて大さく聞てさこてないっ。

「もう一回この本読んで」「何度こうしてせがまれることでしょう。子どもは気に入った本に出会うとしては、らくは同じ本を読んで持ってきます。ああ、また!と思いがたがり返してんていううちに、親子ともすつかり暗記してしまつたという経験もありでしょう。」



この本 読んでみて!

小説

『青春のむろろ』アベックスシイラー 作
求龍堂 1260円
トラックにはねられて死者の園へ行ってしまった少年ハリーは、残り残したことがあつたのを思い出して、青春のむろろから作者の園へ降りてきます。そこでハリーが目にしたのは、失つてしまつてはじめて気がつくてはかりでした。生きつづけてはたに自分たちをさがすが、無性に悲しくなったり、生きつづけてはたに自分を見えなかつたものが見えたりしてきます。

大人むけ

今、生きつづけてはたに自分を見えなかつたものが見えたりしてきます。

『大人が絵本に涙する時』
柳田 邦男 著 平凡社 1470円

「大人こそ絵本を読もう!」と、ウキキヤパンを始めるのが、6年になつたあつた。

その間絵本を通じて、いのちのつながりや無償の愛、心の中心、生きつづけてはたに自分を見えなかつたものが見えたりしてきます。買つたものがたくやめあつた中、今月は『の本』と決定するまでのやりとりが楽しいです。

皆さんのご家庭では、どんな読書時間をお過ごしですか? 次号より「新」コーナーで紹介します。お気に入りの本、読書の様子などいろいろ教えてください。
また、「このおたより」への意見、感想などありましたら、ぜひお寄せください。

中央図書館 Email
lib@uo.ac.jp
lib@uo.ac.jp
lib@uo.ac.jp
lib@uo.ac.jp
lib@uo.ac.jp
lib@uo.ac.jp
lib@uo.ac.jp

絵本と読書

もう一回この本読んで

渡辺富佐子

「もう一回この本読んで」「何度こうしてせがまれることでしょう。子どもは気に入った本に出会うとしては、らくは同じ本を読んで持ってきます。ああ、また!と思いがたがり返してんていううちに、親子ともすつかり暗記してしまつたという経験もありでしょう。」

同じ本を何度も読んでと書いてきたら、「この子に大好きな一冊ができた」と喜びましょう。好きな理由は何でも構いません。言葉のくり返しが好き、言葉の響きが好き、物語の主人公になりきってハラハラドキドキしたりにんまりしてその世界に浸るのが嬉しいなど、決して内容を忘れたのではなく、読み手の話すことを自分の記憶や予想と比べ、確かめながら聞いています。間違えたり飛ばし読みをするなど、すぐ気がついて指摘する鋭さに舌を巻くこととはしばしばです。彼等は耳に心地よくお話を聞きながらすすみます。

すみまで絵を読み取っています。例えば、絵本を読んでいると「ちよつと待って」と前のページへ戻つてもう一度絵を読んで納得する姿、と思うと読み終つてから「この公園はすつと前の絵の中にあるよ」と教えられて初めて気づくことがあります。

テレビの映像は瞬時に流れ去りますから「ちよつと待って」は言えませんが、絵を見ながら余韻に浸ることもできません。

お母さんの膝の上で、夜眠る前のひとときを布団の中で寄り添いながら、心のこもつた温かい言葉で大好きな絵本の世界へ案内してもらつた子どもたち、愛されていることを実感しながら安心して眠りにつく子どもたち。親にとつても至福の時間と言えますよ。

聞く耳が薄れていると言われる昨今の子どもたち、に生の声で心をこめて幾百の絵本の世界を詠み語る大人たちにも、「自分の言葉で、自分の声で語る喜び」をじゅうぶん味わつてねと心からエールを送ります。

おかあちゃん、いやなときわねい、くども、い、くども、おなじこと、おこるときいやなおかあちゃん、だよ、ほんをよんでくれるとき、いちはん、いいおかあちゃん、だよ、(四才女児)

渡辺さんは、たから幼稚園長時も、中部学院大学講師の現在も、絵本の読み聞かせを子育てに取り入れようと推奨されています。

- ① 学校図書館ガイド
市内の公立小中学校の学校図書館の本を全戸計する何冊になるでしょう。
 - ② それは、一人当たり何冊になるでしょう。
- (答えは前ページです)

読書タイム

市内の学校・園・施設の
子どもと読書をのぞいてみました



伊深保育園

伊深保育園は、毎日、保育絵本の読み聞かせを取り入れ、こどもを豊かにのびのびと表現できる力を育てています。
読み聞かせの途中では、子どもたちに質問したり、説明をしたりしないようにしています。そして読み終わった時には感想を求めたりせず余韻を大切にすることを心がけています。
子どもは保育士の心のこもった生の声を耳にしなが、絵を読み、お話しの世界に入り込んでいくこの時間をとても楽しみに待つようになりました。



昼食後、当番の子どもが読んで欲しい本を園文庫から選び、保育士に読んでもらう時間も大切にしています。保育士も、子どもが選ぶ色々なジャンル

の絵本に出会えることが楽しみの一つになりました。
毎月一回地域の方との交流「ふれあいひろば」を行っています。この時、読み聞かせグループの方々による絵本の読み聞かせ時間を設け、園児と地域の方と一緒に絵本の世界を楽しみます。子どもたちは「さるかに」「ももたろう」などの昔話に出会ったり、大型絵本や仕掛け絵本の面白さを味わったりしています。
こうした体験を通して、子どもたちの身を乗り出して聞き入る姿が見られるようになってきました。また、毎月一回保育園の文庫開放日を設け、親子で絵本により親しめるように取り組んでいます。お母さん、お父さんに絵本をよんでもらうこの至福の時間をこの時期一番大事にして欲しいと思っています。



《クイズの答え》
① 105,484冊
② 21冊
(H18年10月現在)

三和小学校



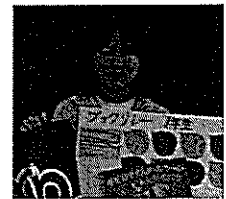
三和小学校は、「読書の楽しさが分かる、進んで本を選んだり本を調べたりできる子が増えること」を願い、『心のオアシス的な場』を築いて、図書館経営を進めています。

図書開放

いつでも気軽に図書館を利用してもらうべく、図書館は朝から放課後まで、常時開放しています。一年生でも、自分なりのコード操作をして、上手に貸し出しや返却ができるようになりました。また、本は元の場所に戻すのが返す。図書館は静かに利用する。「を守る」ことができたため、常時開放ができます。図書館利用マナーが、本を大切に扱うことができたことは、三和小の巨額の投資の一つです。

委員会活動

図書委員会が立てた学年は各自わたおすめの本を決め、このころから読書タイムの活動が始まりました。それはブックリレーです。ブックリレーというの



度は初めての活動ですが、どの学年も、誰が薦めてくれたのか、どんな本が回ってくるのか、とても楽しみに待っていてくれます。職員間でもブックリレーが行われ、ええ、先生たちももう三冊目が終わったの」と児童から声が上がります。お互いに刺激し合って読んでいます。

本の出会い

子どもたちがたくさん本と出会った「い」という考えから、学外講師、読み聞かせボランティア、図書館司書、担任やその他の職員による「読み聞かせ・朗読」を続けています。中には、八年以上継続している活動もありです。子ども達はお話集中して聴き楽しんでくれています。なかなか、自分で本を決められない子も、読み聞かせしていただいた本



を自分で読んでみたい」と、借りに来る子がいます。いろいろな本との出会いは、子ども達の読書意欲につながっていると実感しています。

環境づくり

おすめの本を棚から取り出し、館内の方ウンターを利用して平置きしています。取り出す時には「スボーン」「戌亥だから犬なぞにテーマを決めています。このコーナーは、とても好評です。普段図書館におむつているような本でも、ウンターにあると、子どもたちが手に取って読んでくれます。テーマ決めに悩みますが、読書意欲の向上につながることをよく分かります。担当としてとても楽しい企画の一つになります。



これからは委員会司書のボランティアを大切にする。図書館司書ボランティアの方との連携を取り職員との協力を得たりしながら、一人ひとりに合わせた読書指導を続けていきたいと考えています。本が大好きな美濃加茂の子ども達へ。